

今シリーズ展開中は、 「教学改革実態調査」で全国の大学に伺います

今号の特集はいかがでしたでしょうか。シリーズ「学習者中心の教学改革を推進する」の展開中、高等教育研究室VIEW21大学版編集部では、『VIEW21』をお送りした全国の大学を直接お訪ねし、右記のような内容のヒアリング調査を実施しています。小誌編集部からの連絡がありました際には、ぜひとも、調査へのご協力をお願いいたします。この活動は次号以降も続けてまいります。

ヒアリング内容

- 教学改革の現状
- 教学改革の課題
- 改革の成果
- 今後の改革の方向性 など

調査およびコンサルティングのご案内

高等教育研究室では、大学の教学改革を通じた教育力の向上が、ステークホルダーの満足度を高め、安定的・継続的に学生を募集し得る大学経営に結び付くことを重視し、さまざまなご提案と実行のお手伝いを行っています。

▶ 教育力の現状評価・課題分析

入試分析、大学選択行動調査、高校生調査、
入学者調査、卒業生調査、企業調査 など

▶ 教学改革の実践支援

ジェネリックスキル開発、キャリア教育推進支援、
中退抑制対策、FD・SD支援、新学部設置・再編支援、
教育における地域連携支援 など

▶ ステークホルダーへの訴求

高等学校・高校生への大学説明の支援、
地域・企業への大学説明の支援 など

ご支援の事例

事例1 学内検討された教学改革の方向性が、教職員の意識改革と継続的なFDとともに強力に実行されるように、学内ムーブメントづくりをご支援しました。

事例2 学習意欲の低い学生を学びから脱落、退学させないために、学生調査と学内検討のファシリテーションを実施し、教学改革の方向性をご提案しました。

事例3 学生の成長実感を伴った授業改善に貢献するため、授業評価アンケートの設計・実施・分析を行い、シラバスやポートフォリオも含めた改善点をご提示しました。

高等教育研究室では、上記のほか大学教育に関する調査研究、アセスメント研究開発等も行っています。

(株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所高等教育研究室

TEL 03-5320-1191 URL <http://berd.benesse.jp/koutou/>

次号は12月上旬発行予定です

VIEW21 大学版 2014 Vol.3 秋号

2014年9月10日発行/通巻第9号

発行人 山崎昌樹

編集人 福光賢治

発行所 (株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所

印刷製本 (株)ビーヴィオコーポレーション

編集協力 (有)ベンダコ

執筆協力 二宮良太

撮影協力 ヤマガチイッキ

VIEW21大学版 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2丁目1-1 新宿三井ビルディング13階
編集部 電話 ☎03-5320-1191

©Benesse Corporation 2014

READER'S VIEW

前号の「2014 Vol.2夏号 保存版」に対して
多くのアンケートをお寄せいただき、ありがとうございました。
その中から、今号の特集「ステークホルダーのニーズをくみ取る」の
趣旨に合わせて、高校の先生からいただいた意見をご紹介します。

2014 Vol.2 p.16「大学教育の何を伝えるか」を読んで

東京都立西高校の寺島求先生の記事に共感をしました。

私は、進路指導担当として、年に30校程度の大学からの訪問を受けています。訪問される大学の地域は、北海道だけでなく関東や北陸あたりまで幅広いです。多くは広報担当の職員の方が来校しますが、普段は広報活動をしていない教員の方も来られます。そのどちらであっても共通しているのは、自校のPRとして「就職率や資格取得率の高さ」の話ばかりをされることです。皆さんの主張があまりに同じであるため、私は途中で言葉を遮らざるを得ません。

そして、このようにお願いするのです。「その話はもうよいので、大学そのものの魅力や、教職員の方々が持っておられる課題意識、また、どのように学びの目的を学生に伝えているのかを教えてください。就職実績の話だけであっても、大学ごとの違いは見えにくいですし、生徒たちにも何を伝えればよいのか分かりません。生徒たちが入学後に興味・関心をどのように深めることができるのかをもっと教えてください」と。

しかし、そこでいただける答えは、「準備してきていないので、この場では説明できません」といったものが大半です。中には、大学教員から「この内容で話してほしい」と言われた内容をそのまま伝えに來ただけという広報担当職員の方もいます。

就職率や資格だけが、高校生の進路選択の基準ではありません。私は進路指導担当として、高校生に対して「自分自身で考え、主体的に学ぶ意欲を持って大学へ進学する」ように指導しています。だからこそ、大学側も「学びの重要性を伝え、知的好奇心を満たしつつ普遍的な基礎力を身に付けさせる」べきだという寺島先生の主張に大いに共感するのです。これこそが、本来あるべき高大接続の姿ではないでしょうか。

今後も、このような視点から、情報を提供いただけることを期待しています。

北海道旭川東高校 進路指導主任 教諭 松井恵一

編集部より

◎夏号のアンケートでは、寺島先生のご意見に対する同様のお声を数多くいただいています。「大学で学ぶことの意義や意味が見いだせるか」「生徒（学生）の知的好奇心は満たされるのか」「主体性などの『社会で求められる力』は身に付くのか」などこそが、「ステークホルダー」である高校の先生方の本質的な大学に対する「ニーズ」の一つであることが改めて確認できます。

また、学習者中心ということは、学生におもねることではなく、時には学生を突き放しつつも、社会に出られる一人前の人間にすることだ、とする大阪大学の川嶋太津夫教授のご意見にも、数多くの同意のお声をいただいています。

編集部といたしましても、このような形で読者の皆さま方とコミュニケーションを取りながら誌面を作成していきたいと考えております。ご意見・ご感想や、小誌で深く掘り下げるべきテーマなどを編集部までお寄せいただければと存じます。（村山）

◎夏号のお届け後より、全国の大学に教学改革実態調査（P.20 参照）として、訪問させていただく中で、教学改革の進展状況や『VIEW21』大学版についてのご意見・ご感想を伺っております。

大変ありがたいのは、調査へのご協力を快諾いただくことが多いことです。小誌は、教学改革の手助けとなるような情報のご提供を趣旨としておりますが、各地の大学での改革推進のプロセスや体制を学ばせていただくことで、小誌の視点が広がってまいります。

各地の大学から改革推進でのご苦勞をお伺いすることが多いですが、夏号でご提案している改革ステップは概ね受け入れていただいている実感がございます。より多くの方に評価いただけるように、視点を広く持ちながら今後も特集・連載を組んでまいります。

今後とも、教学改革実態調査を継続して実施してまいりますので、引き続き、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。（広瀬）